

toVO トヴオ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2

十五年
学式
五所川原市立南小学校

2011.9.24

NO. 013

20130411

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 加藤 靖信さん・睦子さん・一聖くん・葉琉くん
いっせい はる

撮影場所 ▶ 五所川原市立 五所川原南小学校 (五所川原市)

●2011年3月11日のことを憶えていますか? ▶ 靖信さん「仕事が終わって帰ってきて家に1人でいたんです。トイレで用を足してる時に揺れて(笑)すぐおさまるかなと思ったんですが、揺れがとてもし長く、急いでTVを点けました。一瞬だけTVはついたんですよ。ニュース速報が流れたりして、でも、すぐ停電になりました。妻は仕事でしたし、次男は保育園でしたが、その日、学校から早く帰っていた長男の居場所が分からなくて…。まず実家に行って、長男は友人の家に行ってることを確認できたので、保育園へ次男を迎えにいきました。ちょうど母が入院をしていたのですが、母からも電話があり、家族全員の無事が確認できました。不思議に停電でも家の電話は繋がってたんですよ。」 睦子さん「私は仕事でした。今までも地震はあったし、なんとかなるだろうって思ってたんですけど、すぐに停電になったので作業をストップして、従業員が安全な場所に集まって、皆で家族の無事を確認しました。夫ともその時に連絡が取れて、家族全員が無事だった分かりました。でも、その時ってホント何が起きているのかって全く分かってなくて、夕方、帰り道で車の中のTVを初めて何が見たのかを知りました。私が家に帰った時には、家族がみんな家にいました。」 一聖くん「友達の家で4人で遊んでいる時に地震がきて、その家の人に家に帰ったら?って言われて帰りました。お父さんが交差点で待っていてくれました。」 葉琉くん「憶えてない…。」 ●その日の夜は? ▶ 睦子さん「食べ物はいっぱいあったんです。家はプロパンガスですし、

食べ物は困らなかつたです。」 靖信さん「灯油ストーブもあったから、お湯も沸かせたんです。ただ灯りには困りましたね。」 靖信さん「あ、その日の夜は夜勤だったんですよ。一応来てくれて家に電話がきて。普通に夜10時から4時まで仕事をしてました(笑)その時はまだTVもつかないし、一緒に働いている人たちも状況をよく握めてなくて、みんな『まだ停電かな?』なんて感じてましたね。今思えば不思議な感じがすけど(笑)」 睦子さん「夫の妹の家がオール電化で何もできないって、子どもと2人で家に来て、一緒にご飯を食べたんです。だから私と妹と子ども3人で、この家で過ごしてたんです。」 ●震災後って何か変わりました? ▶ 靖信さん「電池とか買いましたね。ラジオも準備して。でも、やっぱりどこか遠いところの話という感じで、正直、危機感はないんだと思います。当時はとにかく何かしなきゃ、何かしなきゃと思ってましたが、結局、何もできず…。その年の夏に被災地でプレハブを建てる仕事をずっとして、それで初めて凄いいことになってるなっていう実感が湧きました。」 ●10年後は? ▶ 睦子さん「うちの家族はいつも全員が居間にいるんですね。こういう雰囲気って10年後も続いていたらいいなと思います。」 靖信さん「子どもたちは1度は外に出て欲しいですね。家はいつでも帰れる場所であり続けたいと思います。子どもたちとは10年後も一緒に野球はやってたいですね。」 一聖くん「中学校に入ったら、もっと遊びたい(笑)野球も勉強も頑張りたいです。」 葉琉くん「小学校に入ったら、友達の家遊びにいきたい(笑)」

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール (info@tovo2011.com) にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011/12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 当日はあいにくの雪と雨と暴風…。今号は息子さんたちが各々中学、小学校に入学するご家族にお願いをしました。震災から2年が経過し、青森に住む僕たちは、すっかり元通りの生活をして、でも、やっぱり、当時のことはちゃんと記憶して、そして、今の被災地のことも知っていて、どこかで何かしたいなって思ってる。僕はこの小さなフリーペーパーで、そういうのを伝え続けたいなと思っています。【小山田 和正】

東日本大地震・津波遺児チャリティー



2011年6月~2013年2月28日まで

¥1,350,741

を「あしなが東日本大地震・津波遺児基金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児基金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶加藤 靖信さん・睦子さん・一聖くん・葉琉くん
撮影場所▶五所川原市立 五所川原南小学校（五所川原市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のことを憶えていますか？

▶靖信さん「仕事が終わって帰ってきて家に1人でいたんです。トイレで用を足してる時に揺れて（笑）すぐおさまるかなと思ったんですが、揺れがとても長くて、急いでTVを点けました。一瞬だけTVはついたんですよ。ニュース速報が流れたりしてて、でも、すぐ停電になりました。

妻は仕事でしたし、次男は保育園でしたが、その日、学校から早く帰っていた長男の居場所が分からなくて…。まず実家に行って、長男は友人の家に行ってることを確認できたので、保育園へ次男を迎えにいきました。ちょうど母が入院をしていたのですが、母からも電話があり、家族全員の無事が確認できました。不思議に停電でも家の電話は繋がってたんですね。」

▶睦子さん「私は仕事でした。今までも地震はあったし、なんとかなるだろうって思ってたけど、すぐに停電になったので作業をストップして、従業員が安全な場所に集まって、皆で家族の無事を確認しました。夫ともその時に連絡が取れて、家族全員が無事だって分かりました。でも、その時ってホント何が起きているのかって全く分かってなくて、夕方、帰り道で車の中のTVを観て初めて何が起きたのかを知りました。私が家に帰った時には、家族がみんな家にいました。」

▶一聖くん「友達の家で4人で遊んでいる時に地震がきて、その家の人に家に帰ったら？って言われて帰りました。お父さんが交差点で待っていてくれました。」

▶葉琉くん「憶えてない...。」

●その日の夜は？

▶睦子さん「食べ物はいっぱいあったんです。家はプロパンガスですし。食べ物は困らなかったです。」

▶靖信さん「灯油ストーブもあったから、お湯も沸かせたんです。ただ灯りには困りましたね。」

▶靖信さん「あ、その日の夜は夜勤だったんですよ。一応来てくれって家に電話がきて。普通に夜10時から4時まで仕事をしてました（笑）その時はまだTVもつかないし、一緒に働いている人たちも状況をよく掴めてなくて、みんな『まだ停電かな〜』なんて感じでしたね。今思えば不思議な感じですけど（笑）」

▶睦子さん「夫の妹の家がオール電化で何もできないって、子どもと2人で家に来て、一緒にご飯を食べたんです。だから私と妹と子ども3人で、この家で過ごしてたんです。」

●震災後って何か変わりました？

▶靖信さん「電池とか買いましたね。ラジオも準備して。でも、やっぱりどこか遠いところの話という感じで、正直、危機感はないんだと思います。当時とはとにかく何かしなきゃ、何かしなきゃと思ってましたが、結局、何もできずで…。その年の夏に被災地でプレハブを建てる仕事をずっとして、それで初めて凄いことになってるなっていう実感が湧きました。」

●10年後は？

▶睦子さん「うちの家族はいつも全員が居間にいるんですね。こういう雰囲気って10年後も続いていたらイイなと思います。」

▶靖信さん「子どもたちは1度は外に出て欲しいですね。家はいつでも帰れる場所であり続けたいと思います。子どもたちとは10年後も一緒に野球はやってたいですね。」

▶一聖くん「中学校に入ったら、もっと遊びたい（笑）野球も勉強も頑張りたいです。」

▶葉琉くん「小学校に入ったら、友達の家遊びにいきたい（笑）」

【編集後記】当日はあいにくの雪と雨と暴風…。今号は息子さんたちが各々中学、小学校に入学するご家族にお願いをしました。震災から2年が経過し、青森に住む僕たちは、すっかり元通りの生活をして、でも、やっぱり、当時のことはちゃんと記憶して、そして、今の被災地のことも知っていて、どこかで何かしたいなって思ってる。僕はこの小さなフリーペーパーで、そういうのを伝え続けたいなと思っています。【小山田 和正】

【寄付総額】2011年6月～2013年2月28日まで、『¥1,350,741』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。